



# NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、長原

(電話) 06-6949-6435

令和5年12月8日

## 内航船員の確保・育成対策

### 奈良市立富雄中学校および守口市立樟風中学校にて 出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、中長期的視点に立った取り組みの一環として、近畿管内の各小中学校を対象に出前講座を実施しています。

今般、奈良市立富雄中学校および守口市立樟風中学校において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日：令和5年11月16日（木）、11月28日（火）

対象：奈良市立富雄中学校、守口市立樟風中学校

対象者：奈良市立富雄中学校：中学2年生15名

守口市立樟風中学校：中学2年生14名

講師：近畿内航船員対策協議会 磯合 信之 氏

講義内容：海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等：

- ・「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）
- ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）

配布先：海運関係業界プレス

## 奈良市立富雄中学校および守口市立樟風中学校で 出前講座を実施しました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役社長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、近畿内航船員対策協議会 磯合 信之構成員（三興海運（株）専務取締役）を講師として、令和5年11月16日（木）に奈良市立富雄中学校において、さらに、11月28日（火）に守口市立樟風中学校において、「出前講座」を実施しました。

いずれの出前講座も、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとし、奈良市立富雄中学校では2年生15名が、守口市立樟風中学校では2年生14名が参加しました。なお、両校とも、さまざまな分野のゲストティーチャーを招いたキャリア教育の一環として企画され、消防士、弁護士、歯科医師、銀行員、新聞記者といった多様な分野から講師を招き、職業講演が実施されました。



奈良市立富雄中学校では、講師が自身の職業を明かさない状態で講演がスタートし、生徒が用意した質問に対して、インタビュー形式で受け答えをし、講師からの回答を受けて生徒同士が相談し、講師がどのような職業なのかを予想するという流れで進められました。生徒からはさまざまな質問があり、「どのくらい勤続しているのか」「従業員はどのくらいいるのか」といった、講師自身や会社にフォーカスを当てた内容から、「いろいろな国と関わる仕事か」「職業に関する専門学校はあるか」といっ

た、職業を特定しようとする内容まで、非常に多くの質問が寄せられました。途中で講師がヒントも与えながら、無事に「船員」という職業にたどり着くことができ、海運がなぜ重要か、船員はどのような仕事をしているかについて、わかりやすく説明しました。

一方で、守口市立樟風中学校では、最初から職業を明かした状態での講演であり、生徒から「船員はどんな目的を持って仕事をしているのか」「船を操縦する資格はどのようにして取得するのか」といった質問が事前に寄せられていました。講演では、船員としてのやりがいや、船員に進むための進路にも触れながら、海運業が日常生活にどのように関わり、担い手となる船員がどのような働き方をしているのかを伝えました。

いずれの講演でも、船員に接する機会の少ない生徒に、物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、日本の貿易量の約99%以上を運んでおり、資源が少なく輸入に依存している日本において、安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。

私たちの生活に深く関わりがあることを理解してもらうために、日本で製造・加工していても、原料の多くを輸入に頼っている食品や、発電や工場で使用される石炭や石油など、具体例を提示しながら説明しました。生徒たちは、船が止まるとさまざまな産業が停滞し、日常生活に支障を来すことを理解し、海運の重要性を認識できた様子でした。



次に、船の強みとして、一度に大量の物資を運ぶことができる点を紹介し、大量輸送の一例として、大型船のデッキの大きさはサッカーのフィールドが3面並ぶほどになることを説明しました。

また、船員は何日も船に乗ったままになるため、仕事と生活が同じ場所になるという特徴があり、船員には衣食住が保障されていることも紹介しました。さらに、船員の給料は、陸上職に比べて高く設定されており、乗船中はお金を使う機会がほとんどないため、給料の多くを貯蓄できることも伝えると、生徒だけではなく先生も興味を持ったようでした。



最後に、「将来の職業を選ぶにあたり、中学生などの早い時期から目標をもって勉強しておくことが、どのような職業でも一人前になる近道になる」という助言を送り、講演は終了となりました。

講演後には、生徒から「年収はどのくらいか」や「船内で提供される食事はおいしいのか」といったものから、「各地の紛争は、なにか影響があるのか」といった質問があり、講師は自身の経験談を交えながら、時間の限り丁寧に回答しました。また、現在でも海賊が出没する海域があり、もし海賊に遭遇したときはどのように撃退するのかについて説明し、生徒も熱心に回答に聞き入っていたことから、船員の仕事に関心を持った様子でした。講演が終了した後も、一部の生徒が講師のもとに近寄って「船員になるにはどうすればよいか教えてほしい」と質問するなど、講演をきっかけに船員に魅力を感じた生徒もいるようでした。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が生徒の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)